

京都市貴船の川床の実測研究

星野 剛徳^{*} , 早川 紀朱^{**}

A Design Survey on the Kawadoko Platform over Kifune River in Kyoto City

Takenori HOSHINO^{*} and Noriaki HAYAKAWA^{**}

(Received November 08, 2015)

Kawadoko Platforms in Kyoto City are raised, terrace-style outdoor dining platforms set over the Kifune River next to Japanese restaurants. Kawadoko Platforms are temporary constructions, and are thus built and removed every day. Since these platforms are set both close to the riverside and the surface of the river, they have a remarkable nature-oriented approach. However, because of their impermanence, Kawadoko Platforms have, to date, not been regarded as research objects in academia; thus, there are no drawings showing detailed information on their construction. This paper presents a design survey of Kawadoko Platforms over the Kifune River and describes the physical/spatial relationship among the platforms and natural elements such as trees, rocks and waterfalls.

Keywords: Kawadoko Platform, Kifune River, design survey, nature-oriented approach, temporary construction

□ 1. 研究の目的と背景

本稿は京都市貴船川河畔の料亭群に併設されている川床（以下「貴船の川床」と呼ぶ）のうちの4軒の川床の実測調査を行うことにより、貴船の川床の基礎的な資料を整理するとともに、ランドスケープと建築の関係性のあり方を検証することを目的とする。

近年 CFD 解析等を用いて温熱環境や風環境などの分析・視覚化が可能になるなかで、人々の生活の快適性を向上させるために自然環境を積極的に生活空間へと導入する試みがなされている¹⁾。また、建築を「環境から人間を守るためのシェルター」としてとらえるよりも、既存の環境とつながったものとして構築してい

こうという意識も見られる²⁾。そうした流れから我が国の伝統建築を見つめ直すと、京の町屋や寺院の塔頭等に見られた庭屋一如の空間は、優れて既存の環境と人間生活を調停する場として構築されてきていたことに気付く³⁾。筆者らは、本稿で研究対象とする貴船の川床もそうした調停の場の優れた一例であり、広義の建築であると考えている。

貴船の川床の来歴については、田中(1999)らの論考に詳しく紹介されている⁴⁾。貴船の川床では真夏の炎天下でも平均気温 23.5 度と、京都市内の温度より 10 度は低くなり、床に腰を下ろした途端に、汗が引いていく⁵⁾。貴船の自然が運んでくる清らかな空気・水と一体となった川床は、人間の生活と自然環境を調停する場のある意味極北であるともいえる。貴船の川床は川底や川岸等への極端な接近を示しており、自然環

^{*} 建設工学専攻大学院学生 (Graduate School of Engineering, Constructional Engineering)

^{**} 建築学科 (Department of Architecture)

境との親和性には独自のものが感じられる。また、日常的に設営を繰り返す必要性から建築構法的にも興味深いものとなっている。従来土地に固定化された町屋や寺院、そしてその庭は建築学分野の研究対象となり、実測調査がなされてきた³⁾。しかし貴船の川床は毎日設置と撤去を繰り返す仮設構築物であったためか、あるいは屋根がないという意味で法解釈上の非建築物であったためか、これまで実測調査等が行われてこなかった。しかし上述したように貴船の川床は環境と人間の生活を調停する場としての優れた例であり、今後同様の空間を計画していく参照例として実測・検証する意義がある。近年、北浜テラス⁶⁾をはじめとして、水辺の景観を向上させ、川と都市のくらしを結びつけることを目的としてウォーターフロント開発の一環として川床を設置する例が散見されるようになってきた。本稿の実測図はそのような将来的な川床の普及においても参照されるべき知見と考え紹介する次第である。



図1 貴船の川床

□ 2. 分析対象と分析の流れ、実測方法

本稿では2013年7月1日から9月25日の間に6回の調査を行った結果を紹介する。交渉の結果調査を許可された4軒の料亭（1）貴船茶屋、2）ひろやおよびひろや別館、3）貴船荘、4）喜らく）の川床の平面形態、貴船川との配置関係および1）、3）の断面形態を実測した。また、1）、3）の川床の設置方法も調査した。鴨川沿いの川床が水面よりも数メートルほど高く常設されているのに対して、貴船の川床は水面付近に日常的に仮設・撤去される。また、仮設建築であることから、畳大のモジュールが整理されており、平面形態は限定される。

本稿ではまず、調査した4軒の料亭の川床の平面・形態および、貴船川との配置関係、2軒の断面形態を図面化する。その後、作成した実測図面より、川床の特徴をそれぞれ検証する。川の段差や屈折・岩の存在などにより貴船の川床は多様な空間性をもつ。貴船の川床の空間性を説明するためには、床の実測だけでは不十分であり、自然要素との位置関係が重要である。そのため自然要素との位置関係も検証する。以上が分析の流れとなる。

次に実測方法を説明する。実測は単独での作業とし、主にメジャー（3m、10m）を用いた。正確な測量等は行っておらず、また川の勾配はわからないため川の断面形態は正確ではない。また建物の実測も行っていない。本稿の実測はあくまで川の上に設置される床部分に限

定される。国土地理院の提供する基盤情報⁷⁾に盛り込まれている建物の外形図と5mメッシュの標高データから得られる等高線をベースとし、計測した情報を追加していく。一般的に複雑な自然地形の実測は困難が伴う。そのため、大域的な正確さを国土基盤情報で担保し、局所的な正確さを実測により補うこととした。

まず、川床の大きさをひとつずつ実測する。次に隣合う川床同士の間隔を実測し、川床から川岸までの距離を実測する。樹木や石の位置関係も実測し、断面調査では貴船茶屋1）と貴船荘3）の2軒において水面から川床レベルまでの距離と水深を実測する。以上の実測結果をCADデータ化し、先述した国土基盤情報で得た建物外形線と等高線のデータと統合する。

□ 3. 平面形態の調査結果

前章で記した流れにより実測した結果を図2に示す。

まず全体の概況として、対象領域において貴船川は緩やかに蛇行し、局所的に屈曲している様子が分かる。また、等高線から貴船川の両岸はおおよそ勾配42度の急峻な地形となっていることが確認できる。以下に4軒の川床の平面形態の特徴を示す。

1) 貴船茶屋（領域1）

川の幅は比較的一定であるため、川床の幅が4.8m、5.64mに統一されており、二瀑の滝がある。また、川床の間に入るように岩が配置され、流れのパターンに変化が生じている。岩の寸法は大きいもので1.8×1.1mある。川壁と川床の関係は接しているものから、1.2m離れているものまでである。川床の間隔は、最小で0.4mであるのに対し、最大で6.8mと多様性がある。このため川床の配置にある種のリズムが生じている。

2) ひろや（領域2）

川の幅は、狭い場所で約4.5m、広い場所で約6.3mであるが、二瀑の滝があるため、流れに変化が生じている。川壁から樹木が茂り、樹木に囲まれている。川床の間隔は最大で5.0mであるのに対し、最小で1.0mであり一定していない。また、川壁と川床の関係は接しているものから、2.2m離れて配置されており、場所により景色が少しずつ異なる。

3) ひろや別館（領域3）

もっとも大きな屈曲点の直前に位置している。川の幅は、最大で14.58mあり、調査時において幅が広い場所で、川床は一つになっている。唯一川床に橋が架かり、川床が浮島のようにになっている。滝までの距離は約3.0mである。川壁と川床の関係は接しているものから、6.3m離れて配置されており、一つの川床で景色が異なる。

4) 貴船荘（領域4）

大きな岩（1.8 x 4.5m）を川床で囲むように配置し、

コの字のように配置されている。歩道から川床までのアプローチでは、岩を削り、階段にしている。滝に近いところで距離 1.0m である。樹木はないが、苔が壁を覆っている。川幅も上流側から下流側に向かって減少しているため、流れや滝の水量の変化が起きている。川壁と川床の関係は接しているものから、1.4m 離れているものまでである。

5) 喜らく (領域 5)

川の幅は比較的狭く均一で、各川床の間には、樹木や小さな滝などがある。川床から樹木までの距離は約 0.5m であり、川壁と川床の関係は接しているものから、1.2m 離れているものまでである。川床の間隔は最小で 0.9m であるのに対し、最大で 2.0m と多様性がある。川の流れて川床が「逆くの字」型に屈折しており、自然の変化を人工物が強調している。

□ 4. 断面形態の調査結果

実測調査した貴船茶屋の川床 (領域 1) と貴船荘 (領域 4) の断面図を川の流れて記す (図 3)。水面から川床までの距離が 0.3m ~ 0.6m ときわめて近いことがわかる。また、川床間隔は、岩や滝といった自然要素を避けながら決定されており、これによりこれら自然要素を川床からの景色に取り入れている。

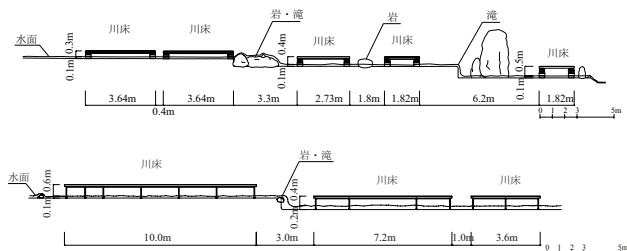


図 3 領域 1 と領域 4 の断面

□ 5. 建築構法について

貴船茶屋の川床 (領域 1) と貴船荘の川床 (領域 4) の基礎部分の概念図を図 4, 5 に示す。領域 1 の基礎は、コンクリートブロックと木材を針金で固定したものである。一方、領域 4 では、鋼管で基礎ができています。できるだけ簡易的に設置や高さの調節をするために各料亭がそれぞれの実情に合わせて工夫をしていることが分かる。

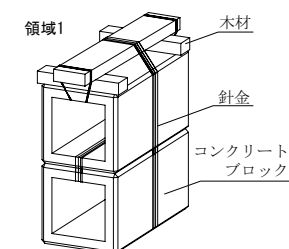


図 4 領域 1 の基礎部分

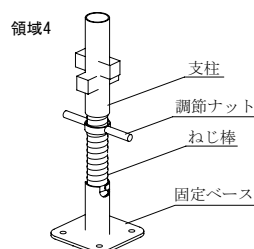


図 5 領域 4 の基礎部分

□ 6. まとめ

京都市貴船川河畔の料亭群に併設されている 4 軒の川床の実測調査を行い、国土基盤情報と統合した図面を作成した。樹木、滝、岩といった自然要素もプロットすることにより、自然地形・要素と人工的な川床との関係性を明確にできた。単独での実測であったため精度に課題は残るものの、貴船の川床の基礎的な資料を整理するという当初の目的は果たせたと考える。本稿の実測図は将来的な川床の普及において参照されるべき知見となりうると考える。

また、実測した図面を眺めると、貴船の川床は 1.82 x 0.91m のモジュールに立脚しながらも、自然要素に応答しながら間隔を空け、屈曲し、川岸への超接近と離反を示し、それぞれの川床が独自の景色を獲得している。単純な反復では得られないバリエーションを獲得しているといえよう。実測した範囲では川床と水面の高さも 0.3 ~ 0.6m であり、こうした自然要素への極端な接近が貴船の川床の大きな特徴でもある。

今後は実測した図面をもとに、貴船のこうした親水性・新自然性が熱・風といった環境的にどのような効果を発揮し、川床の快適性につながっているのかを気温や水温・風速の実測や CFD 解析等により確認していきたい。

謝辞

本研究では貴船茶屋、ひろや、貴船荘、喜らくに実測調査において多大なる御協力をいただいた。ここに深謝の意を示す。

参考文献

- 1) 末光弘和、末光陽子『風のかたち熱のかたち建築のかたち』、新建築住宅特集 2015 年 4 月号増刊
 - 2) 石上純也、『自由な建築 既存の概念から解き放たれた先にあるもの』、新建築 2011 年 1 月号、p. 46
 - 3) 西澤文隆、『建築と庭—西澤文隆実測図面集』、建築資料研究社、1997
 - 4) 田中尚人、川崎雅史、牧田通『水辺におけるアメニティの変遷に関する研究—京都鴨川の納涼床を対象として—』土木計画学研究・論文集、1999、No. 16
 - 5) 貴船荘 HP、<<http://www.kibunseou.com/kawadoko/>> (2015 年 10 月閲覧)
 - 6) 水都大阪 HP、<<http://www.osaka-info.jp/suito/jp/project/detail/95>> (2015 年 10 月閲覧)
 - 7) 国土地理院 | 基盤地図情報サイトダウンロードサービス <<http://fgd.gis.go.jp/download/>> (2015 年 10 月閲覧)
- (注) 田中らは「川床の発生は納涼的な意味もあったが、山村である貴船では京都の市街地から戻ってくる、いわゆる「藪入り」の際に近隣の人々をもてなす風習として発生したといわれている。当時各戸は床几一つずつ所有しており、それを貸し借りして多くの人数に対応したという。」「その発展には、全国に多くの分社を持つ貴船神社の存在が大きな影響を及ぼし、貴船神社の例祭 (6 月 1 日) には全国から参詣者が集まり、祭典後の「直会 (なおらい: 神と食事をするという祭りの一部)」には氏子衆はこれらの人々をもてなすため、貴船川に床几を並べ料理を振る舞ったという。」「もともと 2 2 戸であった氏子は現在もほとんどが貴船川沿いで飲食業を営んでいる。」「古来「樹生嶺」と書き表されたともいう貴船は、周囲を国有林で覆われ、「木を守ることが水を守ることに繋がっている」との認識を村全体で持ち合わせ、そのような意思統一が川床というシステムを育んだという。」と述べている。参考文献 4)、P. 483